

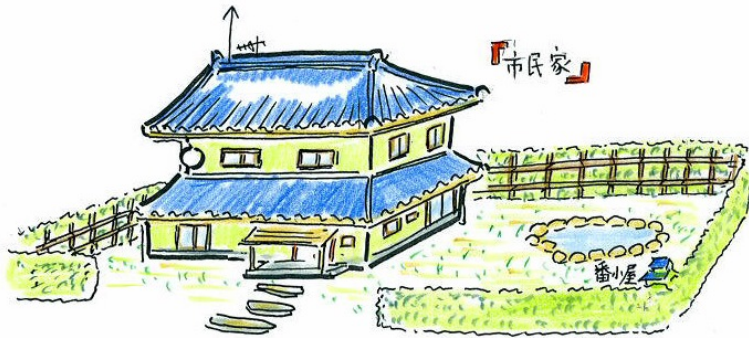
◆◆ 支援くんの火災予防奮闘記 ◆◆

これまでのあらすじ

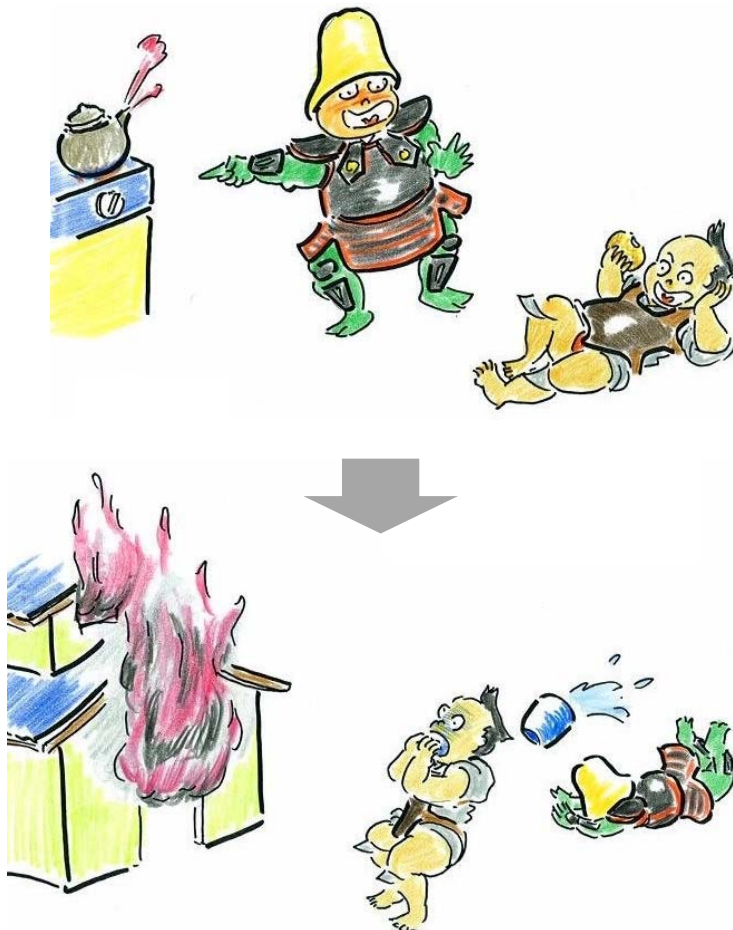
物語を読む前にまずご覧ください。



物語の主人公 支援くんは「市民家」の火災予防を司る妖精です。



家来の^{ちゅうげん}中間 ご助と火災予防の点検を行うのですが、まじめな支援くんに比べ、あまり仕事に熱心じゃないご助の点検はいつも問題ばかりで、時に大きな事故まで起きてしまいます。



そんなご助に手を焼きながら、火災の予防を行う支援くんたちの姿は、普通の人には見えない筈なのですが、今年5歳になる市民家の長女 援ちゃん^{えん}には何故か二人の姿が見えるようになったのでした。

てんとく
点得幼稚園の年中さんの援ちゃんは、二人と遊ぶのがだぁーい好き。

でも、援ちゃんの好奇心が大きな事件を引き起こすこともあります。



ご助と援ちゃんに振り回され、苦勞の絶えない支援くんの

火災予防奮闘記 をどうぞご覧ください。

支援くんの火災予防奮闘記

～火災を起こさないために～

Vol.34

久々の登場、ミーちゃんです。

少し前のお話なんにゃけど・・・最近は一人遊びが多くなったミーちゃんだ
けど寂しくないの。

それはね、お気に入りのオモチャがあったからなの。

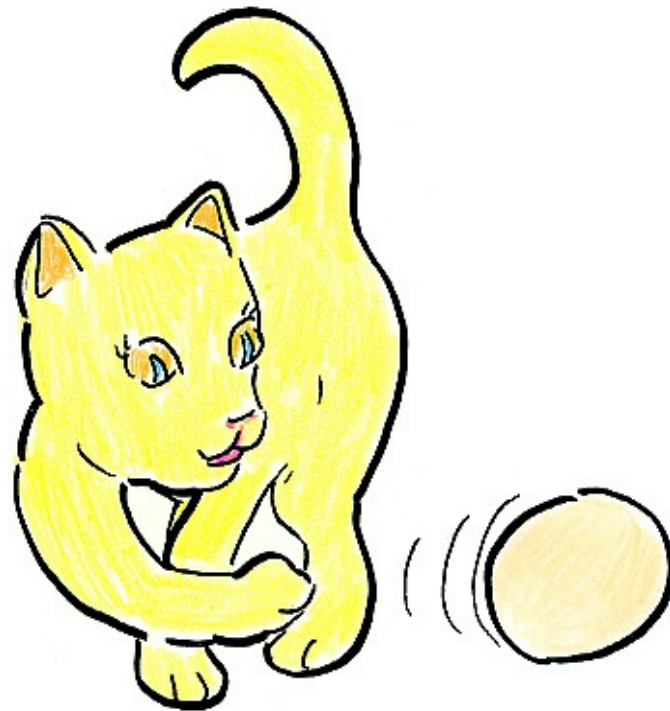
そのオモチャはね、今から3年くらい前、えんちゃんが2歳ごろかな？お昼
寝から起きたえんちゃんが、お菓子を食べていって暴れたことがあったのよ。



それで根負けしたパパがね、お菓子を買ってきてあげたの。そのお菓子におまけのおモチャが付いていてね、最初はえんちゃんが遊んでいたんだけど、飽きたのかお部屋の隅にほったらかされていたのよ。

それでミーちゃんが、そのおモチャをもらってお気に入りにしたのよ。

コロコロと転がって、本当に面白かったのよ。



それがね、あれは2週間くらい前のことかにはゃあ？パパさんがお庭に大きな穴を掘りだしたの。

あたしは、お家の中から、にゃにしているのかにはゃあ??って見てたんだけど…。

1週間くらいして、今度はパパさんが大きな石をゴロゴロと穴に入れて、次に大きなタンクで水を注ぎだしたのよ。

ミーちゃんはねえ、大きなプールを作ってるのかなあ??っておもってたのよ。



でもね違ったの。

あれはおとといのことよ。パパさんがその穴に入れたのは、綺麗なお魚だったの。

わーあ、お魚がいっぱい！！って、見てたら、パパさんがね

『ミーちゃん。これは金魚だよ。食べちゃダメだぞ。』て言うのよ。

あたしだって、生のお魚なんて食べないわよ、失礼しちゃうわって思ったの。



でもね、やっぱりあたしも猫じゃない・・・少しは気になるじゃないの。

生のお魚ってどんな味なのかにゃあ？・・・って。

それでも誘惑に負けないように、お気に入りのオモチャで遊んでいたのよ。

昨日の朝も・・・。

でもえね、昼頃かにゃあ？とうとう誘惑に負けて、お気に入りのオモチャをくわえて、金魚を見に行ったの。

ヒラヒラあ、ヒラヒラあ・・・って、金魚は泳いでいたわ。

5匹・・・8匹・・・10匹・・・たっくさん泳いでいたの。

そうしたらね、ミーちゃんの心にダークキャットが来たの。ダークキャット・・・

知らない？

あのね、ダークキャットはね、ミーちゃんの心の中に住んでるの。

普段はね、エンゼルキャットがダークキャットを抑えているんだけど、キャットフードとか、おやつなんか貰うときにはダークキャットの力が強くなってエンゼルキャットを踏んづけて動けなくするのよ。

ミーちゃんが「にゃあああああつ」て大きな声を出してるときは、大体エンゼルキャットがダークキャットに踏んづけられてるときなのよ。

そのダークキャットがねえ、ミーちゃんに言うのよ。

『1匹くらい食べてもパパには分からないよお。食べちゃえ、食べちゃえ』って。



そしたらね、ミーちゃんのお目めが、キュウって細くなっちゃって・・・

『にゃあああああああ』って、声とお手てが勝手に出ちゃったのよ。

『パシャッ』って、ミーちゃんの右手は水の中の金魚に！！

でもね、人生って・・・いいえ、猫生ってそう甘くにゃいのよねえ・・・。

金魚さんの、あの『ヒラヒラあ』とユツタリとした泳ぎはねえ、騙しのテクニックだったのよ。

『ヒラっ』とミーちゃんの攻撃をかわすと、悠々とミーちゃんの手が届かないところへ泳いでいったわ。

『くっ、くっしょう・・・』と思ったわよ。そして『ハッ』って気が付いたのよ。

『無いっ』 あたしのお気に入りのオモチャが！

あたしが『にゃあああああああ』って叫んだ時に落としちゃったのよお！

『あああああ』 もう、あんなに深いところまで沈んでえ・・・！

『にゃあん、あん、にゃああんあん・・・』 悲しくて、お目めが真っ赤になるまでずっと泣いたわ・・・でも、もう見えなくなっちゃったの。



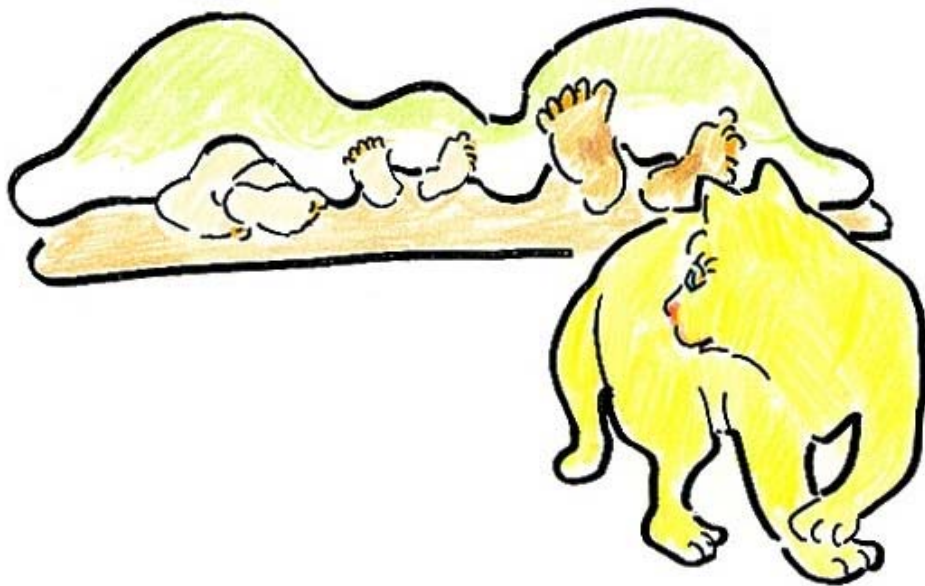
あたしはねえ、お気に入りのオモチャを無くしてから寂しくて寂しくて・・・。
パパさんのお布団でおねんねしようと思ったの。

でもね、いつもは子供部屋でおねんねするえんちゃんがねえ、昨日の夜は
『パパとママと一緒に寝るの。えんちゃん怖くて一人で寝れない！』って言っ
て、それであたしはねえ、パパのお布団から放り出されたのよ。

そしたらパパもねえ

『ははは、牡丹灯笼怖かったかい？』って言って、えんちゃんとママと川の字になって寝ちゃったのよ。

ミーちゃん、思ったわよ……。この我儘なガキが！って……。いけない、いけない、反省。



それで仕方ないからお庭の方へ出たの。もう沈んじゃったんだけど、お気に入りのオモチャの側にいたかったの。

そしたら真夜中かにはあ、支援がね『ギョエエエツ』と悲鳴をあげ、ご助が『ま、待ってくだせえ』とトイレからハンケツで出てきたのよ。

それからしばらくして、ご助が釣り竿に火の玉を付けてぶらぶらしたら、今度は支援がトイレの中で『うぎゃあああああ』って悲鳴を上げたの。

全く、あの二人は何をしているのかと、不思議ったらありやしなかつたわ。



そうこうしてるうちに、今朝がたから2人して、お池の側に穴を掘りだしたじゃない。

1日かけて掘った穴から何かを取り出して、ご助がお池で洗っていたかと思
ったら

「旦那様あ、何ですかねこりゃあ？」というご助がね「なんだかなあ・・・
もじゃもじゃと・・・」という「ひいひいっ」という悲鳴をあげて『ボチ
ャン』と池に落ちたじゃない。

あたしがプカプカと浮かぶご助を助けなかったら、ご助は今頃水の底ね。つ
いでにリカちゃん人形の首も拾い上げておいたんだけど、穴から出てきた支援
が「ご助え、大丈夫かっ？」と言った切り、「ひええええええっ」と叫んで
気を失ったのよ。

本当に騒々しい二人だったわ。



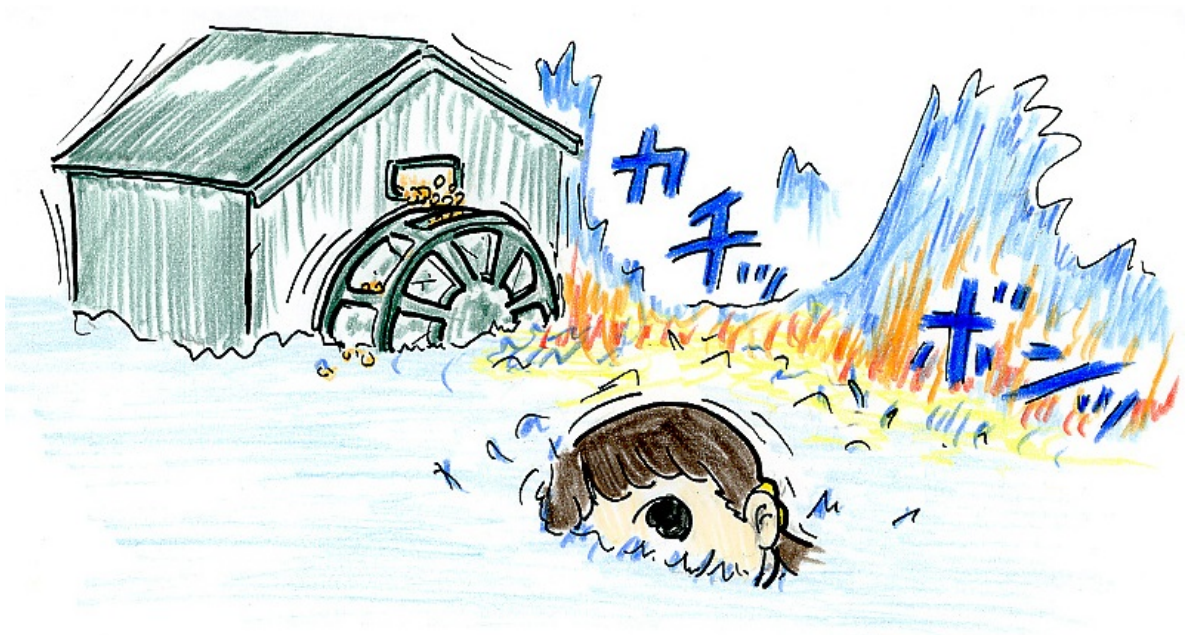
でもね、あたしは二人にとっても感謝してるの。

だって、ご助が池に落ちてからしばらくして、あたしのお気に入りのオモチャが浮いて来たのよ。

何故かですって？

それはねえ、パパさんが水を張ってから、ずっとプクプクって泡が出ていたから、きっとその泡と一緒に浮いて来たのよ。

それから、あたしのオモチャが浮いて来た時に、『カチッ』って 金魚さんの給餌器きゅうじきのスイッチが入ったら、プクプクと湧いていた泡がポーンと燃え出したじゃない。



直ぐに消えたから良かったけど驚いたわ。もう少しで、折角戻ってきたお気に入りのおモチャをまた池に落とすところだったわよ・・・。

ほら、これがあたしのお気に入りのおモチャのペコちゃんよ。



さっき、えんちゃん達にあたしのペコちゃんを見せに行って、『うふふふ』って声を掛けたんだけど、何故か支援が驚いて気を失ったの。

失礼しちゃうわ。もう良いわよ。またしばらく一人遊びしてるわ。ねーペコ

ちゃん。

(おわり)

皆様、いかがでしたか？ 7月から今月号の3回にわたりお送りいたしました牡丹灯籠の結末はミーちゃんお気に入りの『ペコちゃん』でした。

ものがたりの中で、ご助の火遊びやガス漏れなどをご紹介いたしましたが、皆様も身の周りで起きる火災の危険にご注意下さいませ・・・と誰もいない筈の池の方から声が・・・き、気のせいですか・・・。

(※7月号から読み返していただくとさらに楽しんでいただけます。作者談)